

INTERMOT2010 参観報告

ドイツのケルン国際見本市会場にて2年毎に開催されているオートバイ展示会「INTERMOT」は、2008年ケルン展（IFMA）終了により、本年より自転車と合同の二輪車展として新たに開始された。

【INTERMOT2010】

- 主催： ケルンメッセ有限会社
会場： ドイツ・ケルン国際見本市会場
会期： 2010年10月6日(水)～10日(日) 5日間
展示会場： ホール5、6、7、8、9、10及び屋外エリア
展示面積： 110,000㎡（前回120,000㎡）
入場者数： 108カ国 210,000人（前回110カ国 205,000人）
うち、ビジネス客195,000人（前回193,000人）
一般客15,000人（前回12,000人）
出展者数： 40カ国1,107社（前回36カ国1,068社）



メッセ入口

ホール5; INTERMOT e-motion 入口

展示会概要

全体の出展社や来場者は前回2008年開催よりそれぞれ数値を増やす結果となった。展示面積は前回よりホール4の分が減った。出展者の大半はオートバイ関連企業であり、日本4メーカー；ホンダ、ヤマハ、スズキ及びカワサキ、地元ドイツのBMW等が前回同様に巨大なブースを構え、各社とも大変な盛況であった。

今回、自転車関連の出展場所は、「INTERMOT e-motion」と名付けられ、ホール5の2階フロアに集中していた。出展者リスト上、同ホールへの出展者数は160社余りに達したが、電動自転車や電動スクーター等と混在した出展形態が多く、電動アシスト自転車だけの出展はごくわずかに過ぎなかった。従って、実質的な自転車関連企業の出展者は上記数値よりはるかに少ない。また、出展リストに含まれていても、試乗コーナー用に電動アシスト自転車を提供するだけで商品の展示ブースを持っていないメーカー（例；ダービーサイクル、ケトラー及びR&M等）もあり、今回の電動アシスト自転車関連の出展者としては、フライヤー、ザックスやBionX等であり、他の自転車企業は中国からの出展者が多かった。



フライヤー

ザックス



A2B

BionX

ドイツの自転車展は7月にミュンヘンにてドイツ二輪車共同購入組合(ZEG)とその取引先を中心としたBIKE-EXPO、更に9月に世界最大の展示会EUROBIKEが既に行われ、ドイツで年3回の展示会は多すぎるという意見も聞かれる。今回はこれら自転車展に参加していないと思われる中国等の新興企業がフレームや自転車部品を数多く展示していたが、来場者はオー

トバイが好きな一般消費者が多く、出展者と来場者の需要と供給がどこまで一致していたのか、また、ビジネスの場として十分に機能したのかも不透明である。

なお、試乗コーナーについても、同じホール上に電動アシスト自転車とは別に電動スクーター等の電動二輪車の試乗コースがすぐ横にあり、両者は使用形態や速度、出力が全く違い単純比較はできないが、このようないろいろな電動車両が混在した状態で電動アシスト自転車の魅力や利点がどれだけ正しく来場者に伝わったのか疑問が残る。



中国企業の出展の様子



電動アシスト自転車試乗コーナー



電動二輪車試乗コーナー

今後の見通し

今回はオートバイ展としては盛況であったが、自転車と合同の二輪車展として成功したのかは不明である。現在のドイツ自転車市場での電動アシスト自転車ブームを受け、同車種に注力する方向性は間違っていないが、かのミュンヘンやフリードリヒスハーフェンでも電動アシスト自転車に年々力を入れ、出展内容を充実させており、電動アシスト自転車という点だけで差別化を図ることはもはや難しい。次回も二輪車展としての開催を目指すならば、開

催趣旨をより明確にして自転車関連企業への出展募集を行う対策が急務である。
なお、INTERMOT は次回、2012 年 10 月 3 日～7 日の間で開催予定である。

以 上

(デュッセルドルフ事務所)



この報告書は、競輪の補助金を受けて作成したものです。

